

令和6年度 3月号

# めいか

令和7年2月28日  
文京区立明化幼稚園

## 令和6年度の終わりに寄せて

園長 西郡 千晴

今年度の締めくくりとなる園だより3月号の巻頭言を書くにあたり、池田克子園長先生が令和6年度の始まりに寄せた巻頭言を読み返しました。そこには、令和6年度のスタートを見守るように、子どもたちが育てたチュウリップやエンドウの色とりどりに咲く美しい花の様子がありました。

一年の締めくくりとなる3月、子どもたちが育てている栽培物を見てみると、新しく年長・年中組になる学年で植え付けたチュウリップやエンドウの花が芽吹き、育ち始めています。朝夕の厳しい寒さに耐えて、子どもたちの旅立ちを見送り、新しい子どもたちを迎えるその日まで、エネルギーをぎゅっと蓄えて伸びるタイミングを見計らっているようです。

幼児期は、今後の成長の基盤となる大切な時期であり、エネルギーの塊であってほしいと思います。大人が子どもたちに「〇〇できる人」とか「〇〇知ってる人」などと投げかけると、迷いもせずに「はい」「できるー」「しってるー」と返事をしてくる子どもたちがいます。それが本当に正しくできなくてもよいのです。どんなことでもできると思っていることが、とても大事だと思います。「自分はどんなことでもできるのだ」と思うことは、様々なことに興味を示したり、やってみようとするエネルギーの一つになると思います。そんな子どもたちに幼稚園では、ちょっとやったらできそうなことを提示します。そして、「ほら、できたでしょう」という自信をもたせます。更に「すごいね、これはどうかな」と、ほんの少し繰り返すとできそうなことを提示してみます。「すぐにはできないけれど、ちょっとやってみるとできそうだ」と思うことができると、大人や友達の見ていないところでこっそり練習をして、できるようになると嬉しそうに見せてくれます。「しってるー」「できるー」と簡単に答えたものの、それについてうまく説明できそうになかったときには、本人のやる気を崩さないようにしながら「そうなんだ。〇〇なんだよね」とそっと答えを教えてあげていいと思います。そこで興味をもったようであれば「この本に詳しく載っているよ」とか次のステップにつながるようなきっかけやヒントを示してあげればよいのではないのでしょうか。自分は何でもできるという自己有能感は成長とともに薄れてしまいます。自分はあらゆる可能性の塊なんだという気持ちでいっぱい溢れている大切な幼児期をどうぞ丁寧に過ごしていただきたいと思います。

今年度明化幼稚園は、深い悲しみに包まれました。その後、多くの皆様のお支えにより、無事に年度を終えようとしています。尊い命の大切さを学んだ子どもたちです。この経験を糧にして自分を大切に、周りの人を大切にできる人になってくれることでしょうか。この明化幼稚園で過ごした日々が心の蓄えとなり、今後の成長の備えになると信じて、子どもたちの健やかな成長を願っております。

今年度、明化幼稚園の教育活動を支え、応援して下さった保護者の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



大きくなあれ！